

授業科目の概要

博士後期課程

博士後期課程 科目一覧

受講場所	【○】全ての講義が受講可能 【△】一部の講義を受講 【無印】受講不可
------	--

コード	科目名	講師所在	対面受講可能場所			遠隔 ZOOM
			本郷	浦安	三島	
0101	看護学研究論	浦安				○
0201	国際コミュニケーション	本郷/浦安	△	△		△
0103	看護と医学・スポーツ健康科学 ※2024年度は休講	浦安		○		
0104	リサーチ トピックス - D	-	-	-	-	-
0201	看護教育学特論	浦安				○
0202	看護管理システム特論	浦安	△	△		△
0203	感染制御看護学特論	浦安		△		△
0204	臨床病態看護支援特論	浦安/三島	△	△		○
0205	小児看護支援開発特論	浦安	△	△		△
0206	慢性看護支援開発特論	浦安		○		○
0207	高齢者看護支援開発特論	浦安				○
0208	ウィメンズヘルス看護支援開発特論	浦安		△		△
0209	地域看護システム特論	浦安		△		△
0210	メンタルヘルス看護支援開発特論	浦安	△	△		△
0211	在宅看護支援開発特論	浦安		△		△
0212	がん・クリティカルケア看護支援開発特論	浦安				○
0215	シミュレーション看護支援開発特論	浦安		○		○
0301	看護学演習	演習（指導教員に確認）				
0401	看護学特別研究	研究（指導教員に確認）				

※科目によって変更の場合があります。

※詳しくは科目責任者へお問い合わせください。

科目名	看護学研究論	必修・選択	必修	
英語科目名	Nursing Research Theory	対象学年	1年	
開講学期	前期	単位数	2単位	
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング		
担当教員	飯島佐知子、大西麻未、櫻井しのぶ、野崎真奈美、湯浅美千代	授業形態	講義	
授業概要				
全体内容	受講生各自がこれまでに行なった研究方法・研究プロセスを相互に分析・評価し合い、研究方法に関する理解を深める。また看護における研究方法の探求のために国内外の原著論文を精読し、未知な看護現象を明確化する研究方法の開発などに向け必要な課題について探求する。			
	※それぞれの研究法を進めるうえで必要となる研究倫理、統計手法を含む			
授業の位置づけ	研究を実施し、論文を作成する上での基礎となる。また、今後、研究論文の査読や指導を行うための基礎的知識を得る。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力			
到達目標	研究方法・研究プロセスをクリティーク（批判的に吟味）し、研究方法に関する探求ができる。 国内外の原著論文を精読し、未知な看護現象を明確化する研究方法の開発などに向け必要な課題の探求ができる。			
先修要件	なし			
関連科目	看護学演習、看護学特別研究			
学修上の注意	事前に提示された課題について準備すること。 主体的な参加を期待する。			
成績評価の方法				
評価方法	討議への参加20%、プレゼンテーション40%、レポート40%の内容をもとに、各担当教員が協議し決定する。			
評価基準	・研究方法・研究プロセスを批評し、研究方法に関する探求ができる。 ・国内外の原著論文を精読し、未知な看護現象を明確化する研究方法の開発などに向け必要な課題の探求ができる。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
授業内でコメントする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
テキストは使用しない				
参考文献				
参考文献は以下のほか、授業の中で紹介する。 1) Burns & Grove(2009):The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence (6 th Ed), ELSEVIR SAUNDERS. 2) キャサリン・ポーブ他著(2007):質的研究と量的研究のエビデンスの統合(伊藤景一、北素子監訳)医学書院。 3) 福井次矢編(2008):臨床研究マスターブック、医学書院。 4) Nicholas H. Steneck (2001):ORI 研究倫理入門-責任ある研究者になるために(山崎茂明訳)、丸善。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	各担当教員に、事前にメールにてアポイントメントを取ってください。			
担当教員の実務経験	この科目の科目責任者、科目担当者は全員病院等での実務経験を有しています。その経験を活かし、看護の研究を行う上でのさまざまな研究方法やトピックスを解説します。			
備考	なし			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	湯浅 美千代	オリエンテーション、エビデンスに基づく臨床実践と看護研究、研究倫理	講義	復習90分
2	大西 麻未	量的研究方法：その① ランダム化並行群間比較試験のガイドラインCONSORT 尺度開発のガイドラインCOSIMNの解説	講義・発表・討議	予習（90分） 木戸 芳史：CONSORT-CONSORT 2010声明：ランダム化並行群間比較試験報告のための最新版ガイドライン、看護研究53巻1号、2020年2月、pp. 22-27 加藤 尚子：COSMIN-健康関連尺度の選択に関する合意に基づく指針、看護研究53巻1号、2020年2月、pp. 47-54 他、事前に指定した文献を読み、担当部分のレジュメを作成する。 復習（90分）
3～4	大西麻未	量的研究方法：論文のクリティーク① CONSORTに沿った論文の吟味 量的研究方法：論文のクリティーク② COSMINに沿った論文の吟味	発表、討議 * 事前に、各自が担当する論文を事前に参加する学生・教員にメールで送付する。	各回予習・復習90分
5	飯島 佐知子	量的研究方法：その② 観察研究のガイドラインSTROBE メタアナリシスのガイドラインPRISMA 教育的介入のガイドラインGREET の解説	講義・発表・討議	予習（90分） 友滝 愛：STROBE-疫学における観察研究の報告の強化（STROBE声明）：観察研究の報告に関するガイドライン 看護研究、53巻1号、2020年2月、pp. 28-33を読む。 木戸芳史：PRISMA-システマティック・レビューおよびメタアナリシスの報告における望ましい報告項目：PRISMA声明 看護研究、53巻1号、2020年2月、pp. 34-39 友滝 愛、加藤 尚子、柏原 康佑、木戸 芳史、本田 順子、深堀 浩樹：GREET [Development and validation of the guideline for reporting evidence-based practice educational interventions and teaching (GREET)] - 根拠に基づく実践の教育的介入と教育の報告ガイドライン (GREET) 看護研究、53巻2号、2020年4月、pp. 152-153 他、指定の文献を読み、担当部分のレジュメを作成する。 復習（90分）
6～7	飯島佐知子	量的研究方法 量的論文のクリティーク①② STROBE、PRISMA、GREETにそった論文の吟味	発表、討議 * 事前に、各自が担当する論文を事前に参加する学生・教員にメールで送付する。	予習・復習各90分
8	湯浅美千代	質的研究方法：その① 質的記述的研究	講義	予習・復習各90分
9～10	湯浅美千代	質的研究方法 質的論文のクリティーク①②	発表、討議	各回予習復習各90分
11	櫻井しのぶ	質的研究方法：その② グラウンデッド・セオリー研究 (Theory and Application)	講義、討議	予習・復習90分
12～13	櫻井しのぶ	質的研究方法 グラウンデッド・セオリー研究論文のクリティーク①②	発表、討議	各回予習・復習各90分
14	野崎真奈美	ミックス・メソッド・リサーチ	講義、討議	予習90分 参考資料「早わかり混合研究法（ナカニシヤ出版）」等を読む 復習90分 指定論文を読む
15	野崎真奈美	ミックス・メソッド・リサーチ論文のクリティーク	発表、討議	予習90分 指定論文をクリティークする 復習90分 研究課題について手続きダイアグラムを描く

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	国際コミュニケーション	必修・選択	選択	
英語科目名	International Communication	対象学年	1年	
開講学期	1,2年次/後期	単位数	2単位	
代表教員	櫻井　しのぶ	ナンバリング		
担当教員	櫻井しのぶ、浅野恵子	授業形態	講義	
授業概要				
全体内容	21世紀の看護学で活躍する人材にはグローバルなコミュニケーションツールとしての英語が堪能であることが要求される。本授業では医療や看護の分野で用いられる独特の英語表現法に関わる知識を修得することを目的とし、研究を行う上で必要不可欠なコミュニケーション能力を育成するプログラムである。医学や看護における英語論文の読解力を向上させ、英語による発表技術の向上を目指す。後半における内容はTOFELに関連した講義となっており、TOFELの得点の上昇を目標とすることで英語の総合能力が養われる。			
授業の位置づけ	研究活動に必要な英語能力を習得し、国外において研究活動が可能となるための国際コミュニケーション能力を涵養し、学位論文作成への基盤とする			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力			
到達目標	・研究課題に関連する専門分野の国外の英語文献を収集し、文献レビューができる。 ・論文を英語で作成するための基礎となる英作文に必要な能力が修得できる。 ・国際学会等で英語にて研究成果を発表するために英語でのプレゼンテーションができる能力を修得できる。			
先修要件	なし			
関連科目	看護学研究論			
学修上の注意	本科目は提示された英語の文献を読み、自分自身でも適切な英語文献を探索することが求められる。また、文献レビューを行うので、研究に必要な文献レビューの方法については事前に修得しておくこと。更に、TOFELのしくみ、内容など概略を事前に学習しておくことが必要。			
成績評価の方法				
評価方法	櫻井担当　30%　浅野担当　70%で評価を行い、櫻井が取りまとめ判定を行う。 評価の内訳 櫻井担当：学習状況10%、レポート50%、プレゼンテーション40% 浅野担当：学習状況10%、レポート50%、プレゼンテーション40%			
評価基準	・研究課題に関連する専門分野の国外の英語文献を収集し、文献レビューができる。 ・論文を英語で作成するための基礎となる英作文に必要な能力が修得できる。 ・国際学会等で英語にて研究成果を発表するために英語でのプレゼンテーションができる能力を修得できる。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
各担当者が提示する				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし				
参考文献				
テキスト ①Martin,P.S.(1997) Writing a useful literature review for a quantitative research project. Applied Nursing Research, 10, 159-162 ②Ryan-Wenger,N.M(1992) Guidelines for critique of a research report. Heart and Lung, 21,394-401 その他教材は講義の中で指示する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	浅野には事務を通じて 櫻井は随時（事前にメール連絡）：ssakura@juntendo.ac.jp			
担当教員の実務経験	櫻井は留学経験を有し、グローバル人材における研究科の指導を行っており、看護研究における国外の動向に詳しく看護における国際コミュニケーションの仕方を実践的に教授します。また、浅野は医学部における外国語教育に長年従事し、国際コミュニケーションに必要な技術と知識をTOFEL対策を通して教授します。			
備考	一部、医学部の英語集中プログラムに参加することが条件になるので、要問合せ。			

科目名	リサーチ トピックス - D	必修・選択	必修	
英語科目名	Research Topics - D	対象学年	1年	
開講学期	1～3年次/通年	単位数	2単位	
代表教員	平井 周	ナンバリング		
担当教員	－	授業形態	演習	
授業概要				
全体内容	国内外の学会・研究会・大学等が主催する招請講演・教育講演・研修会および順天堂大学が主催する講演会・研修会等への参加により、医療看護研究に関連する最新の知見を深める。 対象となる講演会・研修会等および手続き等については下記詳細を参照。			
授業の位置づけ	本科目では、国内外の学会・研究会や講演会、研修会等に参加することにより、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力、学際的・国際的に学術交流、保健医療活動に貢献できる能力を養う。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力 DP2-卓越した専門性と倫理観、責任感を有し、指導者、管理者、教育者、研究者として学際的・国際的に、学術交流、保健医療活動に貢献できる能力			
到達目標	・他者の研究を自身の研究に引き付けて捉えることができる。 ・他者の発表内容を簡潔にまとめ、わかりやすく報告することができる。			
先修要件	なし			
関連科目	なし			
学修上の注意	15回の出席で2単位とする。 (1回 60～90分)			
成績評価の方法				
評価方法	傍聴記50%、平常点50%を総合して評価する。			
評価基準	・他者の研究を自身の研究に引き付けて捉えることができる。 ・他者の発表内容を簡潔にまとめ、わかりやすく報告することができる。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
研究指導教員から随時指導を行う。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
なし				
その他				
連絡先・オフィスアワー	各研究指導教員へ随時連絡する。			
担当教員の実務経験				
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
		【対象】 下記で研究科委員会の承認を得たもの ・国内外の学会・研究会・大学等の主催する招請講演・教育講演・研修会（分野に関連するもの。発表の有無を問わない。） ・順天堂大学の主催するFDワークショップ、FD講演会、国際交流講演会、外国人講師による遠隔講義 ・その他 【手続き】 ①対象となる講演会・研修会等に参加後、出席表に必要事項を記入し、研究指導教員の署名・捺印を得る。 （学会・研究会への参加の場合、参加を証明できる書類を添付） ②出席が15回に達したら、出席一覧表（最終レポート）に必要事項を記入、研究指導教員の署名・捺印を得たものを、①とあわせて浦安キャンパス事務室に提出。 出席表および出席一覧表（最終レポート）の様式については別途案内する。		予習各回90分 学会参加前に、事前に関連する基礎的な内容や、直近の研究成果を確認しておく。 復習各回90分 聴講した発表、およびその質疑応答の内容をまとめておく。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護教育学特論	必修・選択	選択		
英語科目名	Nursing Education	対象学年	1年		
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位		
代表教員	野崎 真奈美	ナンバリング			
担当教員	野崎真奈美※	授業形態	講義		
授業概要					
全体内容	教育学・教育心理学・教育工学等、看護学に関連する学問によって生みだされた知識の探究を積極的に行い、看護教育学に関する研究論文の批判的検討を通して、自らの研究課題の概念化、研究デザインの探究を行う。そして、看護の学問的発達に寄与することを目標に、看護学の新たな知識の創出を目指して展開される看護教育学研究への理解を深める。				
授業の位置づけ	広く看護教育に関する現象について問題意識をもって振り返り、教育方法・教育評価に関する研究疑問の導出及び研究計画に貢献する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力				
到達目標	・看護教育学に必要な教育学的知識について述べることができる。 ・自らの研究課題に関連する知識を広く探求することができる。 ・看護教育のアップデートなトピックを見出し、それについてのプレゼンテーションができる。 ・看護基礎教育に関する研究の発展性について述べることができる。 ・患者教育に関する研究の発展性について述べることができる。 ・看護継続教育に関する研究の発展性について述べることができる。				
先修要件	特になし				
関連科目	特になし				
学修上の注意	・各回のフォーカスに沿って、文献レビュー等を行い、自分の意見をもって授業に臨む。 ・各回で討議した内容を基に、自分なりの意見をまとめる。				
成績評価の方法					
評価方法	①自己の研究課題に関する概念分析(主要概念、概念間の関連性)、文献検討(50%) ②上記に基づく研究計画書の作成あるいは新たに得た知識に関するレポート(50%)				
評価基準	研究課題が明確であるか、研究目的から一貫した研究計画が構想できているかによって評価する。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
毎回、授業中にフィードバックする。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
・Marilyn H. Oermann, Kathleen B. Gaberson :Evaluation and Testing in Nursing Education,Third edition, Springer Publishing Company,2009 ・Judith A. Halstead, Betsy Frank :Pathways to a Nursing Education Career, Springer Publishing Company,2011					
その他					

連絡先・オフィスアワー	随時電子メール（ma-nozaki@）で質問を受け付ける。			
担当教員の実務経験	この科目での科目責任者・科目担当者は全員病院で看護師としての勤務経験を有しています。その経験を活かし、臨床現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。また、看護教育学を専攻し、大学での教育経験を有しています。その経験を活かし、教育現場の現状と課題および教育学知識についてわかりやすく解説します。			
備考				
授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法＊	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	野崎	ガイダンス：看護教育学と研究課題	講義	予習・復習：（学習時間90分）
2	野崎	研究論文の抄読とクリティーク（フォーカス：教育学的知識）	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
3	野崎	研究論文の抄読とクリティーク（フォーカス：学習能力）	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
4	野崎	研究論文の抄読とクリティーク（フォーカス：教育能力）	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
5	野崎	研究論文の抄読とクリティーク（フォーカス：効果的な教授-学習方略）	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
6	野崎	討議：看護基礎教育に関する研究の発展性	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
7	野崎	研究論文の抄読とクリティーク（フォーカス：患者教育）	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
8	野崎	研究論文の抄読とクリティーク（フォーカス：組織における学習環境）	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
9	野崎	研究論文の抄読とクリティーク（フォーカス：組織における看護教育者）	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
10	野崎	討議：患者教育に関する研究の発展性	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
11	野崎	研究論文の抄読とクリティーク（フォーカス：看護継続教育）	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
12	野崎	研究論文の抄読とクリティーク（フォーカス：教育評価尺度の開発）	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
13	野崎	研究論文の抄読とクリティーク（フォーカス：教育倫理、看護倫理）	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
14	野崎	討議：看護継続教育に関する研究の発展性	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）
15	野崎	まとめ：関心課題の概念化と研究の方向性	プレゼンテーションとディスカッション	予習・復習：（学習時間90分）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護管理システム特論	必修・選択	選択	
英語科目名	Nursing management system Advanced Course	対象学年	1年	
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位	
代表教員	飯島 佐知子	ナンバリング		
担当教員	飯島佐知子※、大西麻未※	授業形態	講義	
授業概要				
全体内容	今日、保健・医療・福祉政策の課題は、限られた資源を効率的に用いてそれを必要とする人々に質の良い医療・看護を提供することである。本講義では、医療・看護提供システムの今日的な研究課題について学際的に理解する。看護管理学の構成要素には、組織における看護師の人員配置や継続教育やキャリア開発などの人的資源管理、看護を提供するために必要な資源を確保するための財務管理、クリニカル・パスやアセスメント・シートなどを用いたエビデンスに基づく看護の提供プロセスの標準化、および、患者・利用者に提供された看護の質や効率性について評価し、その結果に基づくアウトカム・マネジメントがある。これらの構成要素を統合して理解し、施設や地域を包括する看護管理システムを創造するためのエビデンスを探索する。			
授業の位置づけ	最新の看護管理学領域の研究トピックスや研究方法論について理解を深め、自らの研究計画の立案に資する。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力			
到達目標	各単元のテーマに関連し、エビデンスレベルの高い論文やユニークな研究方法の文献を収集しクリティークする。論文の内容について、研究方法論を踏まえたディスカッションをする。最新の研究動向から効果がある看護行為にはどのようなものがあるかを概観し、説明できる。施設や地域を包括する看護管理システムを創造について考察できる。			
先修要件	なし			
関連科目	看護学研究論、看護学演習、看護学特別研究			
学修上の注意	1. 各単元のテーマに関連する英文論文を収集する。 2. 英文を単に翻訳して意味を理解するだけでなく、専門用語や分析方法については事前に可能限り調べて説明できるように、追加資料等を用意しておく。 3. プレゼンテーションは文献に書かれている内容を聴衆に説明できるように また、聴衆からの質問に回答できるように周到に準備してから発表に臨むこと。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。			
成績評価の方法				
評価方法	プレゼンテーション40%、発表用資料の充実度30%、質疑応答30%で評価する。			
評価基準	各単元のテーマに関連し、エビデンスレベルの高い論文やユニークな研究方法の文献を収集しクリティークする。論文の内容について、研究方法論を踏まえたディスカッションをする。最新の研究動向から効果がある看護行為にはどのようなものがあるかを概観し、説明できる。施設や地域を包括する看護管理システムを創造について考察できる。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
プレゼンテーションに対して随時コメントをフィードバックをする				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
適宜文献を収集する				
参考文献				
Gwen Sherwood, Jane Barnsteiner : Quality and Safety in Nursing: A Competency Approach to Improving Outcomes Wiley-Blackwell, 2012. Ada Sue Hinshaw, Patricia A Grady: Shaping Health Policy through Nursing Research. Springer Publishing Company, 2011 Kane, RL: Understanding Health Care Outcome Research, Second Edition, Jones and Brett, 2006. F. Drummond, Mark J. Sculpher, George W. Torrance: Methods for the Economic Evaluation of Health Care ProgrammesM. Oxford University Press, 2000 Cyri F Chan, Sylvia A Price, Susan K, Pfoutz: Economics and Nursing :Critical Professional Issues. FA Davis Company. 2001 Patricia Kelly: Nursing Leadership& Management: International Edition, Delmar, Cengage Learning 2012.				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時。事前に連絡してください。sijima@juntendo.ac.jp			
担当教員の実務経験	この科目の科目責任者・担当者は、看護師、看護部長補佐、日本医療機能サーベイヤーとしての勤務経験を有しています。その経験を活かし、看護管理の知識とその活用についてわかりやすく解説します。			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	飯島	ガイダンス：看護管理学のフレームワークと研究課題	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
2	大西	人的資源管理：リーダーシップ、チームマネジメント	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
3	大西	人的資源管理：組織の変革理論、コンフリクト・マネジメント	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
4	大西	人的資源管理：効果的な人員配置とは	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
5	飯島	看護の質管理：各国での看護の質評価、臨床指標の実践	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
6	飯島	看護の質管理：米国のQuality and Safety Education(QSEN)の取り組み	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
7	飯島	看護の質管理：エビデンスに基づく患者安全	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
8	飯島	看護の質管理：アウトカム・マネジメント	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
9	飯島	看護と医療経済：看護士の労働市場、看護サービスの市場	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
10	飯島	看護と医療経済：医療施設の原価計算 看護士・医療従事者の労働コストの計算方法	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
11	飯島	看護と医療経済：看護の費用効果分析・費用効用分析	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
12	飯島	看護と医療経済：看護の費用便益分析・費用最小化分析	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
13	飯島	看護と医療政策：医療政策に資する看護研究のモデルと戦略	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
14	飯島	看護と医療政策：医療政策に資する看護研究事例の検討	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する
15	飯島	まとめ	レジュメによるプレゼンテーション	予習：90分文献を読みレジュメを作成する 復習：90分自らの研究テーマにどのように適用するか考察する

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	感染制御看護学特論	必修・選択	選択	
英語科目名	Infection Control Nursing Advanced Course	対象学年	1年	
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位	
代表教員	中山 仁志	ナンバリング		
担当教員	中山仁志、岩渕和久	授業形態	講義	
授業概要				
全体内容	「感染症に対抗する」ための科学的根拠に基づいた看護実践法について、学問領域を超えて多面的・総合的に探求するとともに、安全で質の高い医療の提供に繋がる感染予防・制御の方略を考案する。また感染制御の視点から医療関連感染における看護ケア実践の問題を追求し、エビデンスに基づいた実践法を考察する。一方で、地域・社会の感染症問題について考究し、感染免疫・感染制御の学識を基盤に看護実践法を論究する。さらに感染制御の視点から医療・教育の現場における指導者としての実践力の有り様について追求する。			
授業の位置づけ	感染症に対抗するために必要となる新たな知識や実践について研究する能力を育成する			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力			
到達目標	感染症に対抗するために必要となる新たな知識や実践法を見いだすための研究力が身に付く			
先修要件	なし			
関連科目	感染メカニズム、宿主免疫、感染制御、医療安全			
学修上の注意	看護職者として感染症を制御するためにはどのようなことを実践すべきかについて、具体的に考案するための方策を行う。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。			
成績評価の方法				
評価方法	研究計画のプレゼンテーション50%、文献検討50%			
評価基準	感染症に対抗するために必要となる知識と実践力を身につけるための文献検討等ができる			
試験・課題に対するフィードバック方法				
随時対面やメール等でのやり取りで行う				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
免疫-感染症と炎症性疾患における免疫応答(毎月健彦 監訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル)、日本環境感染学会誌、公衆衛生学雑誌、民族衛生学会誌、感染防止のための看護技術-CDCガイドライン-				
その他				
連絡先・オフィスアワー	nhitoshi@juntendo.ac.jp			
担当教員の実務経験	この科目の中山仁志、岩渕和久は微生物学・免疫学の先進的な研究に取り組んでいます。このような経験を活かし、臨床の現場において求められる知識や技術などについてわかりやすく解説します。			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	中山	感染の特質と、感染予防・制御のための基礎理論の習得①	討議	予習・復習各90分
2	岩渕	感染の特質と、感染予防・制御のための基礎理論の習得②	討議	予習・復習各90分
3	中山	感染看護の実践に求められる理論の習得①	討議	予習・復習各90分
4	岩渕	感染看護の実践に求められる理論の習得②	討議	予習・復習各90分
5	中山	医療関連感染に関する研究の現状についての理解と体系化①	討議	予習・復習各90分
6	岩渕	医療関連感染に関する研究の現状についての理解と体系化②	討議	予習・復習各90分
7	中山	医療関連感染に関する研究の現状についての理解と体系化③	討議	予習・復習各90分
8	中山	地域における感染制御の研究の現状についての理解と体系化①	討議	予習・復習各90分
9	岩渕	地域における感染制御の研究の現状についての理解と体系化②	討議	予習・復習各90分
10	中山	地域における感染制御の研究の現状についての理解と体系化③	討議	予習・復習各90分
11	中山	地域における感染制御の研究の現状についての理解と体系化④	討議	予習・復習各90分
12	中山	感染症罹患患者の生活の質向上にむけての研究・教育課題の検討	討議	予習・復習各90分
13	中山	感染症罹患患者に対する倫理向上にむけての研究・教育の検討	討議	予習・復習各90分
14	中山	感染防止のための技術と実践についての研究・教育の検討	討議	予習・復習各90分
15	中山	感染看護の実践力養成に向けた研究・教育法の検討	討議	予習・復習各90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	臨床病態看護支援特論	必修・選択	選択	
英語科目名	Clinical pathology nursing support Advanced Course	対象学年	1年	
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位	
代表教員	植木 純	ナンバリング		
担当教員	植木純、卜部貴夫、北村庸雄、小池道明、戸叶隆司、佐野裕子、濱田千江子、平井周	授業形態	講義	
授業概要				
全体内容	代表的な急性疾患、慢性疾患及び腫瘍性疾患の臨床病態学を学修する。臓器間ネットワークや全身性の炎症からみた新しい臨床病態の考え方、身体症状・所見の背景にある病態、日常生活活動や健康関連QOL、社会参加に及ぼす影響、最新の治療介入手法や支援方法等を学ぶ。さらに、疾患固有の臨床病態に関する最新の知見を基盤とした研究推進力を練成する。			
授業の位置づけ				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力			
到達目標	代表的な急性疾患、慢性疾患及び腫瘍性疾患の増悪期の病態を説明できる。 臓器間ネットワークや全身性の炎症からみた新しい臨床病態の考え方を述べることができる。 疾患固有の病態が日常生活活動や健康関連QOL、社会参加に及ぼす影響を述べることができる。 最新の薬物療法、非薬物療法を病態学的な視野から説明できる。 臨床病態の最新の知見を基盤として研究を推進することができる。			
先修要件	なし			
関連科目	なし			
学修上の注意	・テーマに関わる文献を読み、講義内でのディスカッションの準備をする。 ・関心のある特定領域について文献検討を行いレポートにまとめる。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。			
成績評価の方法				
評価方法	授業への参加40%、講義中のディスカッション20%、レポート20%の内容をもとに、各担当教員が協議し決定する。			
評価基準	代表的な急性疾患、慢性疾患及び腫瘍性疾患の増悪期の病態を説明できる。 臓器間ネットワークや全身性の炎症からみた新しい臨床病態の考え方を述べることができる。 疾患固有の病態が日常生活活動や健康関連QOL、社会参加に及ぼす影響を述べることができる。 最新の薬物療法、非薬物療法を病態学的な視野から説明できる。 臨床病態の最新の知見を基盤として研究を推進することができる。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
・症状の基礎からわかる病態生理第2版 (Color Atlas of Pathophysiology, 2nd edition)、 監訳：松尾 理 (近畿大学名誉教授・近畿大学医学部顧問) 編集：Stefan Silbernagl・Florian Lang、 メディカルサイエンスインターナショナル、東京、2011 ・Harrison's Principles of Internal Medicine, 20th Edition, Dan Longo, Anthony Fauci, Dennis Kasper, Stephen Hauser, J. Jameson, Joseph Loscalzo, McGraw-Hill Professional, 2018 ・看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント、メディックメディア社、東京 2015				
その他				
連絡先・オフィスアワー	junueki@ 毎週火曜日午前中			
担当教員の実務経験	この科目の科目責任者・科目担当者は全員医療機関で看護師や医師としての実務経験を有している。その経験を活かし、臨床の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説する。			
備考	自主的に参加することを期待する。 メール等で連絡を取って担当教員とコンタクトし、積極的にディスカッションを行い、ヘルスアセスメントを探索すること。			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	植木	臓器間ネットワークと病態の考え方(1)	講義	予習・復習各90分
2	平井	腫瘍性疾患の病理・病態学的考え方(1)	講義	予習・復習各90分
3	平井	腫瘍性疾患の病理・病態学的考え方(2)	講義	予習・復習各90分
4	植木	呼吸器疾患の病態と最新の治療介入法(1)	講義	予習・復習各90分
5	植木	呼吸器疾患の病態と最新の治療介入法(2)	講義	予習・復習各90分
6	戸叶	循環器疾患の病態と最新の治療介入法(1)	講義	予習・復習各90分
7	戸叶	循環器疾患の病態と最新の治療介入法(2)	講義	予習・復習各90分
8	北村	消化器疾患の病態と最新の治療介入法(1)	講義	予習・復習各90分
9	北村	消化器疾患の病態と最新の治療介入法(2)	講義	予習・復習各90分
10	濱田	腎疾患の病態と最新の治療介入法(1)	講義	予習・復習各90分
11	濱田	腎疾患の病態と最新の治療介入法(2)	講義	予習・復習各90分
12	佐野	骨・関節系疾患の病態と最新の治療介入法	講義	予習・復習各90分
13	小池	血液疾患の病態と最新の治療介入法(1)	講義	予習・復習各90分
14	小池	血液疾患の病態と最新の治療介入法(2)	講義	予習・復習各90分
15	卜部	脳神経疾患の病態と最新の治療介入法	講義	予習・復習各90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	小児看護支援開発特論	必修・選択	選択		
英語科目名	Family and Child nursing support development Advanced Course	対象学年	1年		
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位		
代表教員	西田 みゆき	ナンバリング			
担当教員	西田みゆき、平田美佳	授業形態	講義		
授業概要					
全体内容	小児看護学に関連する諸理論と子ども観の歴史的変遷を概観し、長期的な療養を必要とする慢性疾患や障害を抱えるこどもと家族の療養支援に関連する理論・概念・モデル、国内外の研究の動向を科学的に分析する。これら理論・概念・モデルの研究課題への適用について考察し、こどもと家族の療養支援のための看護実践方法の開発と検証のための主要な研究方法論を探究する。 各課題について作成した資料を用いた発表と討議を中心に行い、必要に応じて解説する。				
授業の位置づけ	既習の理論と研究報告から得た最近の知見を基に、長期的な療養を必要とする慢性疾患や障害を抱える子どもと家族の療養支援に関連する理論・概念・モデル、国内外の研究の動向を科学的に分析する。これらの理論・概念・モデルの研究課題への適用について考察し、こどもと家族の療養支援のための高度な看護実践方法の開発と検証のための主要な研究方法論を探索し、高度に研究活動の基礎と位置づける。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力				
到達目標	小児看護学に関連する理論・概念・モデルについて分析できる。 小児療養支援看護学に関連する研究論文をクリティークできる。 小児療養支援看護学の主要な理論と概念を分析できる。 小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究方法論について理解し説明できる。 小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究手法について理解し説明できる。				
先修要件	なし				
関連科目	なし				
学修上の注意	別途配布するスケジュール表に即して、学習要項に提示した学習内容について購読文献リストおよび自ら検索した文献を基に学習し、プレゼンテーション資料を毎回作成して授業の2日前に担当教員に提出する。				
成績評価の方法					
評価方法	課題への取り組み30%、プレゼンテーション30%、プレゼンテーション資料10%、レポート1題20%、予備研究20%により総合して評価する。				
評価基準	・小児看護学に関連する理論・概念・モデルについて分析できる。 ・小児療養支援看護学に関連する研究論文を載りティークできる。 ・小児療養支援看護学の主要な理論と概念を分析できる。 ・小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究方法論について理解できる。 ・小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究手法について理解できる。 課題への取り組み30%、プレゼンテーション10%、プレゼンテーション資料10%、レポート課題20%、予備研究30%により総合して評価する。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
プレゼンテーションの後のディスカッションにおいて、フィードバックする。					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし					
参考文献					
・太田喜久子、筒井真優美監訳：フォーセット看護理論の分析と評価、医学書院、2008 ・モーリス・メルロ・ポンティ著、滝浦静雄、木田元訳：眼と精神、幼児の対人関係、みすず書房、1966. ・Chinn PL, Kramer MK: Integrated Theory and Knowledge Development in Nursing, 8ed, ELSEVIER, 2011. ・Walker LO and Avant KC: Strategies for Theory Construction in Nursing, 5th, Prentice Hall, 2010. ・Rogers BL, Knafl KA: Concept Development in Nursing, Foundations, Techniques, and Applications, 2nd, W.B.Saunders Company, 2000. ・近藤麻理、片田範子監訳：看護における概念開発 基礎・方法・応用、医学書院、2023 ・Manley K, McCormack B, Wilson V: International Practice Development in Nursing and Healthcare, Blackwell Publishing, 2008. ・Brink PJ, Wood MJ: Advanced Design in Nursing Research, 2nd, SAGE Publications, 1998. ・Nunnally JC.: Psychometric Theory, 2ed, McGraw-Hill Book Company, 1978. ・Locke LF, Spirduso WW, & Silverman SJ: Proposal That Work. A Guide for Planning Dissertations and Grant Proposals. 5th, SAGE Publications. 2007. ・サンデロウスキー著/ 谷津裕子、江藤裕之訳：質的研究をめぐる10のキークエスチョン、医学書院、2013 ・木下康仁：定本 M-GTA 実践の理論化をめざす質的研究方法論、医学書院、2020					
その他					
連絡先・オフィスアワー	・随時（事前にメールで連絡のこと mnishida@juntendo.ac.jp)				
担当教員の実務経験	この科目の科目責任者・科目担当者は全員、病院で看護師としての勤務経験を有しています。その経験を活かし、臨床の現場において求められる知識や技術を理論と結びつけて、現象をわかりやすく解説します。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	西田・平田	授業内容のオリエンテーションと課題の共有	発表・討議	予習・復習各90分
2	西田・平田	小児看護学と子ども観の歴史の変遷	発表・討議	予習・復習各90分
3	西田・平田	小児看護学に関連する理論・概念・モデルの分析Ⅰ	発表・討議	予習・復習各90分
4	西田・平田	小児看護学に関連する理論・概念・モデルの分析Ⅱ	発表・討議	予習・復習各90分
5	西田・平田	小児療養支援看護学に関連する研究論文のクリティークⅠ	発表・討議	予習・復習各90分
6	西田・平田	小児療養支援看護学に関連する研究論文のクリティークⅡ	発表・討議	予習・復習各90分
7	西田・平田	小児療養支援看護学に関連する研究論文のクリティークⅢ	発表・討議	予習・復習各90分
8	西田・平田	小児療養支援看護学の主要な理論と概念の分析Ⅰ	発表・討議	予習・復習各90分
9	西田・平田	小児療養支援看護学の主要な理論と概念の分析Ⅱ	発表・討議	予習・復習各90分
10	西田・平田	小児療養支援看護学の主要な理論と概念の分析Ⅲ	発表・討議	予習・復習各90分
11	西田・平田	小児療養支援看護学の看護実践方法の開発と看護提供システムⅠ	発表・討議	予習・復習各90分
12	西田・平田	小児療養支援看護学の看護実践方法の開発と看護提供システムⅡ	発表・討議	予習・復習各90分
13	西田・平田	小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究方法論Ⅰ	発表・討議	予習・復習各90分
14	西田・平田	小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究方法論Ⅱ	発表・討議	予習・復習各90分
15	西田・平田	小児療養支援看護学に関する研究課題のための研究手法	発表・討議	予習・復習各90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	慢性看護支援開発特論	必修・選択	選択	
英語科目名	Chronic Illness and Conditions Nursing support development Advanced Course	対象学年	1年	
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位	
代表教員	高谷 真由美	ナンバリング		
担当教員	高谷真由美、長瀬雅子	授業形態	講義	
授業概要				
全体内容	成人の慢性病を持つ人々の看護に関する理論・概念・モデルの検討および研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探索する。これらを通して自己の問題意識を明確にし、慢性病患者の抱える複雑多様な問題状況の概念化および支援モデルの開発とそれらを検証する研究方法論を検討し、患者・家族のQOLを高める援助方法を探索する。 各テーマについての発表とディスカッションを中心に行う。			
授業の位置づけ	成人の慢性病をもつ人々の看護に関する研究の基盤となる理論・概念・モデルを探索する。本科目で見出した課題が博士後期課程における研究活動の中心的概念となる。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力			
到達目標	各自が関心を持つ慢性病を持つ人々の看護に関する理論・概念・モデルの検討ができる。 各自が関心を持つ慢性病を持つ人々の看護に関する研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探索できる。 慢性病患者の抱える複雑多様な問題状況の概念化および支援モデルの開発とそれらを検証する研究方法論を検討できる。			
先修要件	なし			
関連科目	看護学特別研究			
学修上の注意	・事前に提示された課題に対して準備して参加すること。 ・分析で取り扱おうとする事象はどのようなことかを考えておく。 ・研究を実施する上で必要となる研究協力施設・協力者への交渉を行う。 ・成果を関連学会への発表するための必要な準備を行う。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。			
成績評価の方法				
評価方法	授業への参加態度20%、プレゼンテーション40%、レポート40%			
評価基準	1. 各自が関心を持つ慢性病を持つ人々の看護に関する理論・概念・モデルの検討ができる。 2. 各自が関心を持つ慢性病を持つ人々の看護に関する研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探索できる。 3. 慢性病患者の抱える複雑多様な問題状況の概念化および支援モデルの開発とそれらを検証する研究方法論を検討できる。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
担当教員が適宜フィードバックする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
1) アーサー・クライマン著(1998):病いの語り-慢性の病いをめぐる臨床人類学、江口重幸他訳(2004)、誠信書房。 2) Pamela D Larsen. (2023):Chronic Illness :Impact and Interventions. (11th Ed). 3) 船津衛・宝月誠編(2006):シンボリック相互作用論の世界、恒星社厚生閣。 4) 黒江ゆり子他訳(2005) /Pirre Woog ed. : 慢性疾患の病みの軌跡-コービンとストラウスによる看護モデル/The chronic Illness trajectory framework, The Cobin Strauss Nursing Model, 医学書院。 5) 南裕子監訳(2000)/A.L. Strauss and Juliet.Gorbin et.al : 慢性疾患を生きる ケアとクオリティ・ライフの接点/Chronic Illness, 医学書院。 6) Walker & Avant(2005):Strategies for Theory Construction in Nursing. (4th Ed). 7) Fawcett(1993):Analysis and Evaluation of Nursing Theories.				
その他				
連絡先・オフィスアワー	高谷真由美 mtakaya@juntendo.ac.jp 長瀬雅子 mnagase@juntendo.ac.jp			
担当教員の実務経験	この科目の科目責任者・科目担当者は全員病院等で看護師・保健師として勤務し、慢性疾患患者やその家族へのケア経験を有しています。その経験を活かし、慢性疾患看護分野における理論やモデル、概念を実践と結びつけて解説し、研究方法やケアプログラム等への具体的な助言を行います。			
備考	主体的な参加を期待する。 オフィスアワーを設けているので、事前にメールにてアポイントメントを取って積極的にコンタクトをとること。			

科目名	高齢者看護支援開発特論	必修・選択	選択	
英語科目名	Elderly nursing support development Advanced Course	対象学年	1年	
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位	
代表教員	湯浅 美千代	ナンバリング		
担当教員	湯浅美千代、島田広美、杉山智子	授業形態	講義	
授業概要				
全体内容	高齢者看護学の6つの領域からテーマを定めて国内外の最新の研究論文を集め、クリティークし、論点を明確にして発表する。発表・討議を通してより深い考察を導く。 ゼミナール形式で行う。 領域①：高齢者への看護技術(アセスメント、コミュニケーション、環境調整を含む)、または病院・施設における高齢者ケア管理技術(教育、システム整備・評価を含む)(湯浅) 領域②：高齢者のセルフケアに関わる看護、または高齢者への教育方法(島田) 領域③：認知症を有する高齢者の看護、または高齢者のEnd of Life Care(杉山)			
授業の位置づけ	高齢者看護学・高齢者看護実践の発展に寄与できる研究を行う基盤をつくる。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力			
到達目標	1. 高齢者への看護、または高齢者ケア管理に関する技術的側面について、基盤となる知見を収集し、論点・課題を明確に論述できる。 2. 高齢者のセルフケアに関わる看護、または高齢者への教育方法について、基盤となる知見を収集し、論点・課題を明確に論述できる。 3. 認知症を有する高齢者の看護、または高齢者のEnd of Life Careについて、基盤となる知見を収集し、論点・課題を明確に論述できる。			
先修要件	なし			
関連科目	なし			
学修上の注意	授業は原則として前期の土曜日に行うが、日時の詳細は学生と相談の上決定する。 履修にあたっては、高齢者看護学の基礎的知識、実践経験が不可欠である。 不明な点はあらかじめ相談し、発表・討議の準備を行うこと。			
成績評価の方法				
評価方法	プレゼンテーション資料(40%)と授業後のレポート(60%)により評価する。領域ごとの配点割合は、①40%、②30%、③30%である。			
評価基準	・文献に示された結果や知識を正しく理解し、様々な知識と照らし合わせて評価していること ・高齢者看護領域の課題及び自身の提案や考察を、論理的に整理して他者にわかりやすく表現していること。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
プレゼンテーション資料および提出されたレポートについて授業内または授業後にコメントする。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
テキストは用いない				
参考文献				
参考文献を授業内で紹介する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	質問・相談等は必要時メールで連絡してください。 湯浅 myuasa@ 島田 hishima@ 杉山 tsugiya@			
担当教員の実務経験	この科目の責任者(湯浅)および科目担当者(島田、杉山)は病院で看護師としての勤務する中で高齢者の看護を多く経験しています。その実務経験およびその後の教育・研究活動を活かし、高齢者看護の研究能力を高めるための基盤となる知識、トピックスについて解説します。			
備考	なし			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	湯浅 美千代	高齢者看護学領域におけるトピックスの紹介、各領域の説明とテーマ選定	講義、ディスカッション	・予習90分：高齢者看護学全般の復習 ・復習90分：講義内容の整理。選択した領域の献を収集する。
2	湯浅 美千代	領域①「高齢者への看護技術」および「施設・病院における高齢者ケア管理技術」の概説	講義	・予習90分：①に関する国内外の文献を収集、整理し、発表の準備を行う。 ・復習90分：講義内容の整理と関心ある内容を探求する。
3	湯浅 美千代	領域①「高齢者への看護技術」または「施設・病院における高齢者ケア管理技術」について、学生が選択した領域の国内文献検討	発表、討議	・予習90分：①に関する国内の文献を収集、整理し、発表の準備を行う。 ・復習90分：発表時の討議、コメントに基づき、プレゼンテーション資料を追加・修正する。
4	湯浅 美千代	領域①「高齢者への看護技術」または「施設・病院における高齢者ケア管理技術」について、学生が選択した領域の海外文献検討	発表、討議	・予習90分：①に関する海外の文献を収集、整理し、発表の準備を行う。 ・復習90分：発表時の討議、コメントに基づき、プレゼンテーション資料を追加・修正する。
5	湯浅 美千代	領域①「高齢者への看護技術」「施設・病院における高齢者ケア管理技術」のまとめ	講義	・復習180分：講義内容の整理、提示されたレポート課題をまとめる。
6	島田 広美	領域②「高齢者のセルフケアに関わる看護」および「高齢者への教育方法」の概説	講義	・予習90分：②に関する国内外の文献を収集、整理し、発表の準備を行う。 ・復習90分：発表時の討議、コメントに基づき、プレゼンテーション資料を追加・修正する。
7	島田 広美	領域②「高齢者のセルフケアに関わる看護」または「高齢者への教育方法」について、学生が選択した領域の国内文献検討	発表、討議	・予習90分：②に関する国内文献を収集、整理し、発表の準備を行う。 ・復習90分：発表時の討議、コメントに基づき、プレゼンテーション資料を追加・修正する。
8	島田 広美	領域②「高齢者のセルフケアに関わる看護」または「高齢者への教育方法」について、学生が選択した領域の海外文献検討	発表、討議	・予習90分：②に関する海外文献を収集、整理し、発表の準備を行う。 ・復習90分：発表時の討議、コメントに基づき、プレゼンテーション資料を追加・修正する。
9	島田 広美	領域②「高齢者のセルフケアに関わる看護」および「高齢者への教育方法」のまとめ	講義	・復習180分：講義内容の整理、提示されたレポート課題をまとめる。
10	杉山 智子	領域③「認知症を有する高齢者の看護」および「高齢者のEnd of Life Care」の概説	講義	・予習90分：③に関する国内外の文献を収集、整理し、発表の準備を行う。 ・復習90分：講義内容の整理と関心ある内容を探求する。
11	杉山 智子	領域③「認知症を有する高齢者の看護」または「高齢者のEnd of Life Care」について、学生が選択した領域の国内文献検討	発表、討議	・予習90分：③に関する国内文献を収集、整理し、発表の準備を行う。 ・復習90分：発表時の討議、コメントに基づき、プレゼンテーション資料を追加・修正する。
12	杉山 智子	領域③「認知症を有する高齢者の看護」または「高齢者のEnd of Life Care」について、学生が選択した領域の海外文献検討	発表、討議	・予習90分：③に関する海外文献を収集、整理し、発表の準備を行う。 ・復習90分：発表時の討議、コメントに基づき、プレゼンテーション資料を追加・修正する。
13	杉山 智子	領域③「認知症を有する高齢者の看護」および「高齢者のEnd of Life Care」のまとめ	講義	・復習180分：講義内容の整理、提示されたレポート課題をまとめる。
14	湯浅 美千代	高齢者看護領域における看護の課題と改善案に関する討議（学生のテーマによる）	討議	・予習90分：発表準備 ・復習90分：課題をレポートとしてまとめる。
15	湯浅 美千代	高齢者看護領域における看護の課題と改善案に関する討議（学生のテーマによる）	発表、討議	・予習90分：発表準備 ・復習120分：課題をレポートとしてまとめる。

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	ウィメンズヘルス看護支援開発特論	必修・選択	選択		
英語科目名	Women's health nursing support development Advanced Course	対象学年	1年		
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位		
代表教員	大月 恵理子	ナンバリング			
担当教員	大月恵理子、森田亜希子、高橋真理	授業形態	講義		
授業概要					
全体内容	女性の生涯の健康(Women's Health)領域における研究方法論及び学術的な研究論文をクリティークし、Women's Health看護学における健康課題を多角的に捉え、看護援助方法を開発するための理論と概念を探究する。				
授業の位置づけ	自己の実務経験と博士前期課程の各専門分野の特論、演習、特別研究を基盤とし、ウィメンズヘルス看護学における健康課題を多角的にとらえ、システム開発を含めた看護援助方法を探究する。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力				
到達目標	①Women's Health、周産期看護領域に関連が深い理論の概要を説明できる。 ②Women's Health Research、周産期看護学研究に関連が深い、EBP、システムティック・レビュー、研究方法論の概要が説明できる。 ③Women's Health、周産期看護学領域における研究論文のクリティークが理解できる。 ④Women's Health、周産期看護領域における概念分析が理解できる。 ⑤Women's Health、周産期看護領域において、関心がある研究テーマの研究が立案できる。				
先修要件	なし				
関連科目	博士前期課程：ウィメンズヘルス看護学特論、演習、特別研究 博士後期課程：看護学研究論				
学修上の注意	初講時に、毎回の概要と関連する事前課題を提示するので、15分程度でプレゼンテーションできるように、必ず準備をして講義に臨むこと。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーションおよび資料（50%）、討議（50%）				
評価基準	①Women's Health、周産期看護領域に関連が深い理論の概要を説明できるか。 ②Women's Health Research、周産期看護学研究に関連が深い、EBP、システムティック・レビュー、研究方法論の概要が説明できるか。 ③Women's Health 研究論文のクリティークが適切に実施できるか。 ④Women's Health領域における概念分析が説明できるか。 ⑤Women's Health領域において、関心がある研究テーマの研究が適切に立案できるか。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
各担当教員より指示する					
テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
特に指定しない					
参考文献					
Random House Australia;THE WOMEN' S HEALTH BOOK,kindle book 2014,kindle ELLEN OLSHANSKY; Women's Health and Wellness Across the Lifespan,Wolters Kluwer,2015 ウィメンズヘルスとウエルネス、ライフスパンの視点からのアプローチ、エレン・F・オルシャスキー編集、高橋真理他監訳、ゆう書房、2017、2700円+税 NVIVO リファレンス、林真、工学社、2017、1800円+税 土屋雅子、テーマティック・アナリシス法、ナカニシヤ出版、2016年、2200円+税 その他文献は講義中に紹介する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談は随時メールで行う。面接が必要な場合は、メールでアポイントをとり、行う。				
担当教員の実務経験	本科目の担当教員である大月、森田、高橋は助産師としての臨床経験を有しています。その経験を活かし、臨床の場で生ずる現象についてわかりやすく解説します。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	大月恵理子	Women's Healthと関係理論①-ヘルスプロモーション	発表、討議	各回予習90分、復習90分
2	高橋真理	Women's Healthと関係理論②-ジェンダー心理学	発表、討議	各回予習90分、復習90分
3	高橋真理	Women's Healthと関係理論③-フェミニスト理論	発表、討議	各回予習90分、復習90分
4	森田亜希子	Women's Healthと関係理論④-母親役割獲得理論	発表、討議	各回予習90分、復習90分
5	大月恵理子	Women's Healthと関係理論⑤-家族看護論	発表、討議	各回予習90分、復習90分
6	大月恵理子	Women's Health Research①-Evidence Based practice	発表、討議	各回予習90分、復習90分
7	森田亜希子	Women's Health Research②-システムティックレビュー : Cochrane	発表、討議	各回予習90分、復習90分
8	森田亜希子	Women's Health Research③-システムティックレビュー : JBI	発表、討議	各回予習90分、復習90分
9	大月恵理子	Women's Health Research④-混合研究法①	発表、討議	各回予習90分、復習90分
10	大月恵理子	Women's Health Research⑤-混合研究法②	発表、討議	各回予習90分、復習90分
11	大月恵理子	Women's Health 研究論文のクリティーク①-量的研究 メタ分析	発表、討議	各回予習90分、復習90分
12	大月恵理子	Women's Health 研究論文のクリティーク②-質的研究 メタ統合	発表、討議	各回予習90分、復習90分
13	大月恵理子	Women's Health 研究論文のクリティーク③-理論構築	発表、討議	各回予習90分、復習90分
14	大月恵理子	Women's Health領域における概念分析-Women's Health・周産期看護領域	発表、討議	各回予習90分、復習90分
15	大月恵理子	Women's Health研究の実際-関心研究テーマの研究立案	発表、討議	各回予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	地域看護システム特論	必修・選択	選択	
英語科目名	Community nursing system Advanced Course	対象学年	1年	
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位	
代表教員	櫻井　しのぶ	ナンバリング		
担当教員	櫻井しのぶ	授業形態	講義	
授業概要				
全体内容	健康問題は国内外問わず、社会の在り方や環境の変化などにより大きく影響を受け、その内容は複雑多岐に渡る。そして、その解決方法も医学保健分野にとどまらず、様々な分野の複合的な視点を持ったものが求められる。ゆえに、現存もしくは潜在的に存在する健康問題とその関連要因について、より広域な視点、また集団（地域）に存在する個人および家族、特定集団、地域を対象とした深い洞察と分析方法を学び、支援方法の特質と理論的背景、看護の機能の社会的適用方法とケアシステム構築の方法について考察し、エビデンスに基づいた批判的思考のもとにより効果的な支援方法を探索する。			
授業の位置づけ	地域看護活動における健康課題や健康問題について公衆衛生の視点から、解決方法を探索的にかつ組織的に行うための基盤となる知識を得て、新しい看護支援につながる洞察を得て、研究的な取り組みに向かう基盤とする。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力			
到達目標	①地域の健康問題とその関連要因を追求し、個人および家族、集団、地域を対象とした支援方法の特質と理論的背景、看護の機能の社会的適用方法とケアシステム構築の方法について論述することができる。 ②地域看護学に関連する研究論文をクリティークできる。 ③地域看護における健康問題に関連する主要な理論・概念分析ができる。 ④地域看護の特性を使用した理論を使用した解決方法について述べることができ、ケアシステム構築について考察ができる。			
先修要件	なし			
関連科目	Community development, Health promotion, Health Care system, Social Capital			
学修上の注意	授業への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき各回予習90分、各回復習90分を目安とする。			
成績評価の方法				
評価方法	学習状況10%、プレゼンテーション40%、レポート50%で総合的に評価する。			
評価基準	①地域の健康問題とその関連要因を追求し、個人および家族、集団、地域を対象とした支援方法の特質と理論的背景、看護の機能の社会的適用方法とケアシステム構築の方法について論理的に説明できる ②地域看護学に関連する研究論文をクリティークし提示できる。 ③地域看護における健康問題に関連する主要な理論・概念分析が説明できる。 ④地域看護の特性を使用した理論を使用した解決方法について述べることができ、ケアシステム構築について考察ができる。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
講義の中でコメントする				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし				
参考文献				
Naomi E.Ervin. (2002) Advanced Community health Nursing Practice, Prentice hall, Upper Saddle River, new Jersey. hall, Upper Saddle River, new Jersey. Lawrence W.Green, Marshall W.Kreuter. (2005).Health Program Planning: and educational and ecological approach.4th eduition, Macgraw Hill, New York				
その他				
連絡先・オフィスアワー	随時（事前にメールで連絡すること）			
担当教員の実務経験	櫻井は看護師、保健師の臨床経験を有し、博士課程の研究につながる理論的基盤の知識や看護支援の方法論に関して、地域看護学における多くの教育研究の経験を活かして、教授します。			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	櫻井しのぶ	オリエンテーションと今後検討する健康課題やテーマの絞り込み	討議、講義	予習：自分の興味関心のある健康問題について調べる（学習時間 各回2時間） 復習：討議された内容について整理し、更に文献を調べ整理する（学習時間 各回2時間）
2～3	櫻井しのぶ	地域看護学における対象、特徴、看護活動の方法	発表、討議、講義	予習：地域看護における自分の興味関心のある健康問題に相当する対象やその特性、看護活動について調べる（学習時間 各回3時間） 復習：討議された内容について整理し、更に文献を調べ整理する（学習時間 各回3時間）
4～6	櫻井しのぶ	地域ケアシステムで用いる理論と基盤となる概念	発表、討議、講義	予習：地域ケアシステムで用いる理論と概念について調べる（学習時間 各回3時間） 復習：討議された内容について整理し、更に文献を調べ整理する（学習時間 各回3時間）
7～10	櫻井しのぶ	地域看護学において特定した課題とその背景の探索、および解決にむけた看護活動の展開	発表、討議、講義	予習：課題に影響する背景と現在展開している看護活動について調べる（学習時間 各回3時間） 復習：討議された内容について整理し、更に文献を調べ整理する（学習時間 各回3時間）
11～15	櫻井しのぶ	保健医療福祉を統合しケアシステムの構築を目指した支援方法の開発	発表、討議、講義	予習：保健医療福祉を統合し、ケアシステム構築を目指した支援方法について調べる（学習時間 各回4時間） 復習：討議された内容について整理し、更に文献を調べ整理する（学習時間 各回4時間）

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	メンタルヘルス看護支援開発特論	必修・選択	選択	
英語科目名	Mental health nursing support development Advanced Course	対象学年	1年	
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位	
代表教員	水野 恵理子	ナンバリング		
担当教員	水野恵理子	授業形態	講義	
授業概要				
全体内容	1. 様々な状況下にある対象の特性を考慮した精神的健康の維持と増進、疾患予防に関する理論と看護モデル、研究、実践活動について概観する。 2. 関心のあるテーマに関する研究論文の批判的検討を行い、研究動向、主要概念の分析、研究方法論の検討、精神保健看護の支援方法を探究する。			
授業の位置づけ	1年後期の看護学演習に向けて精神医学と精神看護学領域から関心の高い現象について多角的に探究する。この科目と看護学演習を経て看護学特別研究へと展開させる。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力			
到達目標	看護学研究を概観し、人々の精神の健康に寄与しうる新たな知識の創出を目指し、精神保健看護学の発展を導く能力を養うことを目的とする。 1. 精神保健看護に関する国内外の研究動向を概観し、関心あるテーマを特定できる。 2. 精神的健康の維持・向上を目指した援助方法を開発するための理論、主要概念、看護モデルの概要を説明できる。 3. テーマに関する国内外の研究論文を検討する。 4. 自らの研究課題を洗練させ、関連する主要概念を説明できる。 5. 課題に関与する看護援助方法とその効果検証について探究し、今後の展望や限界を明らかにできる。システムティックレビューが望ましい。			
先修要件	なし			
関連科目	なし			
学修上の注意	1. 科学哲学（参考文献1）、看護学に関する文献（参考文献2, 3）、論理的思考を培うための書籍等を読んでおくことを勧める。 2. 授業内容に沿って国内外の文献等を各種データベースから検索し、批判的検討を行う。 3. クリティーク内容は論文ごとにA4・1枚にまとめて蓄積しておくことよい。 4. プレゼンテーションは研究者に相応しい内容と態度となるよう努める。			
成績評価の方法				
評価方法	プレゼンテーションと討議状況50 %、自分の研究課題に関するレビュー 50 %			
評価基準	1. テーマに関連する理論、主要概念、看護モデルの概要を説明できたか。 2. 関心あるテーマに関する国内外の研究論文を幅広く検索し、システムティックレビューまたはスコーピングレビューができたか。 3. 研究課題を洗練させ、関連する主要概念や理論を見出すことができたか。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
各回ごとに教員が説明する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
1. Samir Okasha: Philosophy of Science, Oxford University Press, 2002.（廣瀬寛訳, サミール・オカーシャ, 科学哲学, 岩波書店, 2008.） 2. Peggy L. Chinn & Maeona K. Kramer: Integrated Theory and Knowledge Development in Nursing 8th. Ed., ELSEVIER, 2011.（川原由佳里監訳, チン&クレイマー, 看護学の総合的な知の構築に向けて, エルゼビア・ジャパン, 2007.） 3. Walker, L. & Avant, K. (2005). 中木高夫, 川崎修一訳 (2008). 看護における理論構築の方法, 医学書院. 4. 牧本清子編. Systematic Review. 日本看護協会出版会, 2013. 5. APA著, 前田樹海ほか訳. APA論文作成マニュアル第3版. 医学書院, 2023. その他、随時紹介する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については、随時メールで連絡する。 科目責任者 e.mizuno.iz@juntendo.ac.jp			
担当教員の実務経験	当該科目の責任者は保健医療施設において看護師・保健師としての臨床経験を有している。その経験を活かし、精神保健福祉に関する知識や技術、最近の研究動向などについてわかりやすく解説する。			
備考	なし			

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	水野恵理子	ガイダンス: 関心あるテーマについての討議、諸外国のメンタルヘルスの動向（政策やシステムを含む）	プレゼンテーションと討議	予習120分、復習90分
2-5	水野恵理子	国外のメンタルヘルスの課題：各種データを準備	プレゼンテーションと討議	予習120分、復習90分
6-11	水野恵理子	テーマに関連する文献の検討	プレゼンテーションと討議	予習120分、復習90分
12-14	水野恵理子	テーマに関連する政策、精神医学的動向、精神看護的動向ほか	プレゼンテーションと討議	予習120分、復習90分
15	水野恵理子	総括、文献レビューのプレゼンテーション	プレゼンテーションと討議	予習120分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	在宅看護支援開発特論	必修・選択	選択		
英語科目名	Home nursing support development Advanced Course	対象学年	1年		
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位		
代表教員	伊藤 隆子	ナンバリング			
担当教員	伊藤隆子	授業形態	講義		
授業概要					
全体内容	在宅看護学領域に関連する理論や概念、モデルを検討する。また下記①～⑥に関する国内外の学術的な研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探索する。 ①在宅療養者とその家族の発達段階・ライフステージに合わせた看護実践 ②在宅療養者とその家族の自立・QOLを促進するための看護実践 ③訪問看護など在宅医療・在宅ケアにかかわる制度や現況 ④超高齢社会における地域包括ケアの充実に向けた課題とその解決策 ⑤在宅における関係機関や多職種との連携及びネットワークの構築 ⑥退院支援・調整等の療養の場の移行支援とケアマネジメント				
授業の位置づけ	自身の実務経験ならびにそれまで実施した研究をふまえ、在宅看護学分野における専門的なトピックスを探索する取り組みを行い、研究計画書作成につなげる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力				
到達目標	1. 在宅看護にかかわる理論・概念・モデルを説明できる。 2. 在宅看護にかかわる研究論文をクリティークし研究の動向と課題を検討できる。 3. 在宅看護にかかわる研究方法論を探索できる。				
先修要件	なし				
関連科目	在宅療養者 家族介護者 自立 QOL 訪問看護 在宅医療 在宅ケア 地域包括ケア 多職種連携 移行支援 ケアマネジメント				
学修上の注意	事前に提示された課題について、国内外の文献レビューを行い、プレゼンテーションのための資料を作成する。授業後協議内容をもとにレポートを作成する。 ※各授業につき予習90分、復習90分を目安とする。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション資料60%、授業後のレポート40%により評価する。				
評価基準	1. 在宅看護にかかわる理論・概念・モデルを説明できるか 2. 在宅看護にかかわる研究論文をクリティークし研究の動向と課題を検討できるか 3. 在宅看護にかかわる研究方法論を探索できるか				
試験・課題に対するフィードバック方法					
提示された文献については、授業中にフィードバックならびに協議を行う。 提出されたレポートについては、授業後添削をして返却する。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
なし					
参考文献					
テキストは使用しない。随時参考文献を紹介する。 参考図書： Rudi Dallos: Family Belief Systems, Therapy and Change, Open University Press, 1991. Sheri Smith: Ethical Issues in Home Health Care, Charles C Thomas・Publisher, Ltd. 2008. Lorraine M. Wright, Janice M. Bell: Beliefs and Illness Model for Healing, 2009. Karen Holland, Christine Hogg: Cultural Awareness in Nursing and Health Care, Edward Arnold Ltd. 2010. Marilyn A Ray: Transcultural Caring Dynamics in Nursing and Health Care, F. A. Davis Company. 2010 筒井孝子：地域包括ケアシステムのためのマネジメント戦略、中央法規出版株式会社、2014.					
その他					
連絡先・オフィスアワー		連絡先：ryu-ito@ 随時メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトを取ること。			
担当教員の実務経験					
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	伊藤隆子	オリエンテーション	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
2	伊藤隆子	①に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
3	伊藤隆子	①に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
4	伊藤隆子	②に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
5	伊藤隆子	②に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
6	伊藤隆子	③に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
7	伊藤隆子	③に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
8	伊藤隆子	①～③のまとめ（関連する理論、概念、モデルの確認）	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
9	伊藤隆子	④に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
10	伊藤隆子	④に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
11	伊藤隆子	⑤に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
12	伊藤隆子	⑤に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
13	伊藤隆子	⑥に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
14	伊藤隆子	⑥に関する国内外の学術的な研究論文の発表と討議	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする
15	伊藤隆子	④～⑥のまとめ（関連する理論、概念、モデルの確認）	発表、討議	各回予習・復習各90分ずつを目安とする

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	がん・クリティカルケア看護支援開発特論	必修・選択	選択		
英語科目名	Oncology and Critical care nursing support development Advanced Course	対象学年	1年		
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位		
代表教員	佐藤 まゆみ	ナンバリング			
担当教員	佐藤まゆみ 桑子嘉美 池田恵 高山京子	授業形態	講義		
授業概要					
全体内容	がん看護またはクリティカルケア看護に関する理論・概念及び看護支援モデルの検討を行う。また、国内外の研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探索する。これらを通して、自己の問題意識／研究課題を明確にし、課題に対する看護援助方法を探究するとともに、その効果を検証するための研究方法論を探究する。本授業はゼミ形式で行う。学修テーマについてのプレゼンテーションと参加者全員でのディスカッションにより学びを深める。				
授業の位置づけ	この科目は「専門科目」に位置づけられる。この科目は、「看護学演習」「看護学特別研究」の基盤となる。				
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力				
到達目標	1. 自らが関心をもつがん看護／クリティカルケア看護の現象に関する理論・概念及び看護支援モデルについて説明できる。 2. 自らが関心をもつがん看護／クリティカルケア看護の現象について、国内外の研究論文をクリティークし、研究の動向と課題について説明できる。 3. 自己の研究課題を明確にし、課題に対する看護援助方法を探究するとともに、その効果を検証するための研究方法論を探究できる。				
先修要件	特になし				
関連科目	看護学演習、看護学特別研究				
学修上の注意	[予習（事前準備）] プレゼンテーション資料を作成する。 [復習] 各授業内容について理解を深める。				
成績評価の方法					
評価方法	プレゼンテーション資料・プレゼンテーション60%、授業への参加状況40%を総合して評価する。				
評価基準	1. 自らが関心をもつがん看護／クリティカルケア看護の現象に関する理論・概念及び看護支援モデルについて説明できる。 2. 自らが関心をもつがん看護／クリティカルケア看護の現象について、国内外の研究論文をクリティークし、研究の動向と課題について説明できる。 3. 自己の研究課題を明確にし、課題に対する看護援助方法を探究するとともに、その効果を検証するための研究方法論を探究できる。				
試験・課題に対するフィードバック方法					
ゼミの際に指導を行う。					
テキスト					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
なし					
参考文献					
関連文献・参考文献はその都度提示する。					
その他					
連絡先・オフィスアワー	質問・相談については随時メールで受け付ける。 科目責任者：佐藤まゆみ m.sato.qh@				
担当教員の実務経験	この科目の担当者である佐藤、桑子、池田、高山は、がん看護／クリティカルケア看護に関する看護師としての実務経験を有しています。その経験を活かし、授業内容についての指導を行います。				
備考					

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	佐藤まゆみ 森子嘉美 池田恵 高山京子	ガイダンス	講義	予習90分、復習90分
2～4	佐藤まゆみ 森子嘉美 池田恵 高山京子	がん看護／クリティカルケア看護に関する理論・概念	発表・討議	各回とも予習90分、復習90分
5～7	佐藤まゆみ 森子嘉美 池田恵 高山京子	がん看護／クリティカルケア看護に関する看護支援モデル	発表・討議	各回とも予習90分、復習90分
8～11	佐藤まゆみ 森子嘉美 池田恵 高山京子	がん看護／クリティカルケア看護に関する研究論文のクリティーク	発表・討議	各回とも予習90分、復習90分
12～15	佐藤まゆみ 森子嘉美 池田恵 高山京子	課題に対する看護援助方法の探究と効果を検証するための研究方法論の探究	発表・討議	各回とも予習90分、復習90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	シミュレーション看護支援開発特論	必修・選択	選択	
英語科目名	Simulation Nursing support development Advanced Course	対象学年	1年	
開講学期	1,2年次/前期	単位数	2単位	
代表教員	寺岡 三左子	ナンバリング		
担当教員	寺岡 三左子、植木純	授業形態	講義	
授業概要				
全体内容	医療者教育の変遷を概観し、現状を分析するとともに安全且つ質の高い看護を提供するための人材育成および革新的な看護ケアの方略について探究する。アウトカム基盤型教育を主軸に、シミュレーション教育ならびに関連する学習理論について学ぶほか、ケアの質改善につながる次世代型の看護技術の創出、革新的な看護実践方法の開発について探究する。			
授業の位置づけ	本科目に関連するホットトピックス、教育研究、開発研究について理解を深め、自己の研究計画立案に貢献する。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP1-高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力			
到達目標	1. 医療者教育の変遷をふまえてアウトカム基盤型教育の現状について分析・説明できる 2. シミュレーション教育研究および開発研究に関する理論的基盤と方法論について説明できる 3. 国内外の研究の動向から各単元でフォーカスする内容について分析・説明できる 4. 自己の研究課題における関連領域の学問分野を探索し分析・説明できる			
先修要件	なし			
関連科目	看護教育学特論			
学修上の注意	・各単元でフォーカスする内容についてディスカッションの準備をする ・ディスカッションのための資料作成を含め、研究者としてプレゼンテーション能力を高めるように努める ・シミュレーション教育研究センターを活用する ※各授業につき各回予習90分、各回復習90分を目安とする。			
成績評価の方法				
評価方法	プレゼンテーション資料およびプレゼンテーション50%、ディスカッション50%			
評価基準	1. 医療者教育の変遷をふまえてアウトカム基盤型教育の現状について分析・説明できる 2. シミュレーション教育研究および開発研究に関する理論的基盤と方法論について説明できる 3. 国内外の研究の動向から各単元でフォーカスする内容について分析・説明できる 4. 自己の研究課題における関連領域の学問分野を探索し分析・説明できる			
試験・課題に対するフィードバック方法				
講義の中でコメントする				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし				
参考文献				
・HEALTHCARE SIMULATION STANDARDS OF BEST PRACTICE https://www.inacsl.org/healthcare-simulation-standards （改訂版：無料でDL可能） ・The NCSBN National Simulation Study:A Longitudinal, Randomized, Controlled Study Replacing Clinical Hours with Simulation in Prelicensure Nursing Education, https://www.journalofnursingregulation.com/article/S2155-8256(15)30062-4/fulltext （無料でDL可能）				
その他				
連絡先・オフィスアワー	質問・相談等は随時メールにて受け付ける（連絡は代表教員まで）			
担当教員の実務経験	この科目の担当者である寺岡三左子は看護師として、病院での勤務経験を有しています。また、シミュレーション教育の経験を有しています。 植木純は呼吸器内科医師として病院での勤務経験を有しています。 それらに経験を活かし、臨床における研究や教育研究において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。			
備考				

授業計画				
授業回	担当者	授業内容	授業方法 *	予習・復習・レポート課題等と学習時間
1	寺岡 三左子	ガイダンス シミュレーション教育研究センターオリエンテーション	講義・討議	予習・復習各90分 * 参考文献および関心のある研究資料を準備しておくこと
2-4	寺岡 三左子	アウトカム基盤型教育および関連概念の理解と研究の動向	プレゼンテーションおよびディスカッション	予習・復習各90分
5-8	寺岡 三左子	シミュレーション教育の概要およびエビデンスとなる研究	講義、プレゼンテーションおよびディスカッション	予習・復習各90分
9-10	寺岡 三左子	シミュレーション教育における実証研究および生成AIの活用	講義、プレゼンテーションおよびディスカッション	予習・復習各90分
11-12	寺岡 三左子	教材開発における研究デザイン	講義、プレゼンテーションおよびディスカッション	予習・復習各90分
13-15	植木 純 寺岡 三左子	医療における次世代の研究開発	講義、ディスカッション	予習・復習各90分

* アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

科目名	看護学演習	必修・選択	必修	
英語科目名	Nursing Seminar	対象学年	1年	
開講学期	後期	単位数	2単位	
代表教員	平井 周	ナンバリング		
担当教員	【浦安キャンパス】 飯島佐知子、岩淵和久、植木純、大月恵理子、櫻井しのぶ、佐藤まゆみ、高谷真由美、寺岡三左子、野崎真奈美、平井周、平田美佳、水野恵理子、湯浅美千代、大西麻未、島田広美、杉山智子、長瀬雅子、永野光子、中山仁志、森田亜希子 【三島キャンパス】 大熊泰之、小池道明、西田みゆき、濱田千江子	授業形態	演習	
授業概要				
全体内容	国内外の文献を検討材料とし、より専門性を深めるとともに、各自の関心領域における課題解決が必要とされるテーマを検討する。さらに課題解決に必要とされる理論と方法論、技法について実証的に探究する手法を修得する。 各担当教員と相談し、選んだ分野に関して以下の内容について演習を行う(15回)。 1～4回目 選んだ分野で課題解決をする必要があると考える研究論文のシステムティックレビューと課題解決を必要とするテーマを選定する。 5～8回目 課題解決を必要とするテーマに関する研究デザインの検討をする。 9～13回目 課題解決を必要とするテーマについてデータ収集と分析の実施をする。 14～15回目 課題解決に必要とされる理論、方法論、技法について実証的に探究する方法を検討し、各自の研究課題の究明に活用、発展させる。			
授業の位置づけ	1年前期で選択した特論をふまえ、1年後期の看護学演習では各専門分野において専門的なトピックスを探究する取り組みを行い、研究計画書を作成する。作成した研究計画書に基づき、看護学特別研究を実施する。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-卓越した専門性と倫理観、責任感を有し、指導者、管理者、教育者、研究者として学際的・国際的に、学術交流、保健医療活動に貢献できる能力			
到達目標	各自が関心領域の研究論文レビューや概念分析などから研究課題を絞り込み、研究課題達成に必要な研究方法を検討し、研究計画を作成できる。			
先修要件	なし			
関連科目	なし			
学修上の注意	各担当者より指示する。			
成績評価の方法				
評価方法	プレゼンテーション (50%)、討議 (50%)			
評価基準	専門性を深め、課題解決が必要とされるテーマにおいて必要とされる理論、方法論、技法を用いて実証的に探究する手法を修得する。			
試験・課題に対するフィードバック方法				
各担当者より説明する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
各担当者より適宜紹介する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワーを各担当教員が設けているので、メール等で連絡を取って、積極的にコンタクトをとること。			
担当教員の実務経験				
備考	自ら進んで学ぶ姿勢を望む。			

科目名	看護学特別研究	必修・選択	必修	
英語科目名	Nursing Special Research	対象学年	1年	
開講学期	1～3年次/通年	単位数	10単位	
代表教員	平井 周	ナンバリング		
担当教員	【浦安キャンパス】 飯島佐知子、伊藤隆子、岩渕和久、植木純、上野恭子、大月恵理子、櫻井しのぶ、佐藤まゆみ、高谷真由美、寺岡三左子、野崎真奈美、平井周、平田美佳、水野恵理子、湯浅美千代、島田広美、杉山智子、長瀬雅子、中山仁志、森田亜希子 【三島キャンパス】 大熊泰之、小池道明、西田みゆき、濱田千江子	授業形態	演習	
授業概要				
全体内容	各専門分野の講義・演習を踏まえ各専門分野教員の指導の基に、専門性を高めた研究計画を立案し、研究活動を展開して、博士論文の作成を指導する。 各専門分野教員の研究指導教員及び研究指導補助教員の指導の基に、下記に示す段階を旨し研究活動を展開する。(75回) 1年次 1～15回目 先行研究を検討しながら、研究課題と研究方法を明らかにする。 研究計画書の作成を行う。 2年次 16～20回目 研究計画審査と研究倫理審査を受け、研究を実施出来るよう準備を整える。研究経過の報告を行う。 21～45回目 研究計画に即してデータ収集と分析を行う。その結果を踏まえて関連する文献を用いて考察する。 3年次 46～70回目 論文を作成し学会発表及び学術誌に投稿する。 71～75回目 学術誌への掲載受理を条件に、研究の最終的な取りまとめを行い、学位論文の審査を受ける。			
授業の位置づけ	選択した特論をふまえて取り組んだ看護学演習で作成した研究計画書に基づき、研究を積み重ねて博士論文を作成する。			
ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連	DP2-卓越した専門性と倫理観、責任感を有し、指導者、管理者、教育者、研究者として学際的・国際的に、学術交流、保健医療活動に貢献できる能力			
到達目標	1. 専門看護領域の発展や専門知識・技術の向上・開発を図るために、科学的思考・論理的思考に基づき独創的な研究活動を行うことができる。 2. 研究を推進するに当たり、研究者に必要な研究倫理の公理に基づいて実施できる。 各担当者より適宜紹介する。			
先修要件	なし			
関連科目	なし			
学修上の注意	各担当者より適宜紹介する。			
成績評価の方法				
評価方法	博士論文作成（50%）、口頭試問（50%）			
評価基準	・研究テーマの新規性、独創性 ・研究成果の有用性、応用性 ・論文の論証性 ・倫理観をもった研究の遂行 ・研究データ・結果の客観的評価と適切な考察 ・研究成果の学術的発展性			
試験・課題に対するフィードバック方法				
各担当者より指示する。				
テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				
参考文献				
各担当者より適宜紹介する。				
その他				
連絡先・オフィスアワー	オフィスアワーを各担当教員が設けているので、メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトをとること。			
担当教員の実務経験				
備考				